

綜 合 討 論

問 プラナリア類についてのくわしい知見をうかがい度い。尚材料を提供下されば幸甚。(市川純彦)

答 御同定願えれば幸甚。1. は完全に白色盲目 1.5-2.0 cm. 2. は稍褐色有眼 5.0 mm. (松本浩一)

タテジマイソギンチャクの Di- 及び Mono-glyphic 個体に就て

阿 刀 田 研 二 (東北大・教養・生)

足盤の laceration によつて生ずる断片の形態と再生個体の形態との関係を知るため、人工的に 6 種の断片を作り観察した結果、directives を含む断片よりは総て 2 対の directives をもち 2 の siphonoglyph を有する diglyphic 個体を生ずる。D, II-D-II のような相称的形態の断片からは D-II のような非相称的のものより遙に高率で正常個体を生ずる。directives を含まない断片よりは総て directives が 1 対、siphonoglyph が 1 つの monoglyphic 個体を生じ正常個体は再生しない。各種の断片からは夫々、形態の異なる多数の個体を生ずるが、directives を含む断片よりも含まない断片に於て著しく、なかでも I-II のような非相称的のものに於て最も著しい。

Chordodes 属ハリガネムシの内部構造概報

井 上 滋 (東京学芸大・生)

本属の内部構造については Grenacher (1868, ♀ 尾部) Rauther (1930, ♂ 尾部) 以外報告がないので必要上調査した。以下測定値は省略。外から順にクチクラ・hypoderm・縦筋層が体壁をなし内部を parenchyme が充す。以下の各 organ はその中に収まる。腹側正中線上を腹髄が走りその前端は神経環、後方は (♂) cloaca を挟み分岐し又は、(♀) そのまま後端近くで終る。消化管は腹髄背側を縦走 (之に沿い intestinal sinus が前端近くから後端直前迄 par. 中に生ず)、前端部はクチクラ及 hyp. が数十 μ 入り (口道) 後部は cloaca に続く。cl. も ♂ では 90 μ 位、♀ では 10-20 μ クチクラが内部をおおい hyp. が裏打す。生殖器: ♂ 一対の精巣が背方側面を縦走、各末端内側から径 14 μ 位の vas def. が cl. に入る (op. は後端より前 0.3-0.4 mm の腹面に開口)。♀ 体側を縦走する一対の卵巣、内側の ovid. 一対が主 (両者には所々径 30 μ 位の通管あり)、後者末部は消化管の背方屈曲と共に腹側に曲り子宮両脚に入る。子宮から前に受精囊 (長さ約 15 mm)、後は atrium に移る。子宮・atr. は腺に富み、atr. は cloaca (漏斗状) に移行 (子宮以後は後端 0.5-0.7 mm に収まる)。cl. op. は後端開口。両性共 op. は径 25-30 μ 位。

問 1. 体の全長に亘つて神経節はいくつ位あるか。2. 神経細胞の大きさは大体そろっているか。著しい大小があるか。(松本邦夫)

答 1. 神経節としての特殊構造は認められず、前端部に体壁、消化管前端部間を満す nerve ring があり、少し後方に行くと背側及び側面から parenchym が入り込み、腹髄を残して後方に漸移する。2. 組織学的検索は未だ充分やっていないが、神経細胞にひどい大小差はないと思う。

石川県地方産野生メダカの臀鰭軟条数の変異

福井時次郎・小川良徳 (金沢大・教・生)

野生メダカの臀鰭軟条数の地理的変異の主因は生態的環境よりも隔離によつて生じた遺伝子構成の差に基づくとの推論されているが、筆者等は地理的変異と生態的環境との関連を考慮する事によつて変異の相姿は一層明確になると考える。先ず県内 28 地点より 9092 尾を、次いで三地区を選びその 31 地点より 4733 尾を採集調査した。各群の平均値は開放的水域 (水田地帯) では 17.10-17.70 の間にあるが、隔離閉鎖的水域 (山間の溜池、山田、廃川敷等) の群の平均値は殆んど皆この範囲外に出る。而かも隔離の影響は短年月内に現れ、その軟条数の減増は発生時期に於ける環境条件の良否に依つて影響されると推論される結果を得た。